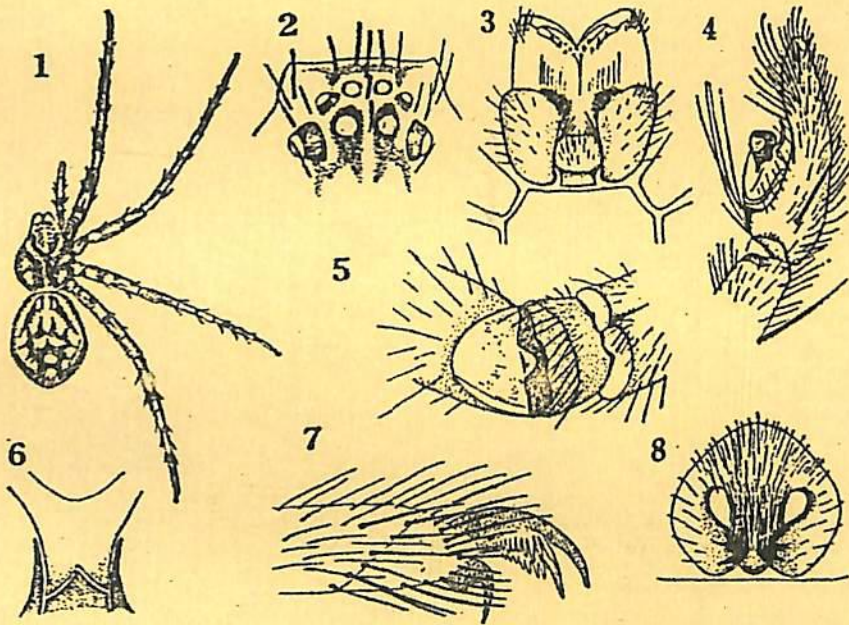


しのびぐも

第 16 号



*Cispius orientalis* YAGINUMA

1988

三重クモ談話会

# し の び ぐ も

第 16 号

1988

---

|  |      |
|--|------|
| 分類学研究におけるカードシステムの利用 (2)                |      |
| 松本誠治                                   | 1    |
| クロマルイソウロウグモの採集観察記                      |      |
| 新海明                                    | 3    |
| 四日市市における電線の間張られた<br>ジョロウグモの網の分布に関する一考察 |      |
| 太田定浩・貝発憲治                              | 5    |
| 三重県におけるクロマルイソウロウグモの記録                  | 9・14 |
| 孫福先生を偲んで                               |      |
| 橋本理市                                   | 10   |
| 三重クモ談話会調査会報告                           | 11   |
| <hr/>                                  |      |
| 談話会図書                                  | 15   |
| 昭和62年度決算報告                             | 16   |
| 会員名簿                                   | 17   |

---

三 重 ク モ 談 話 会

表 紙 説 明

*Cispius orientalis*. YAGINUMA

シノビグモ (キシダグモ科)

1965年5月4日、三重県、三重大学平倉演習林 (一志郡美杉村川上) にて、橋本理市氏採集。

新種として記載された。

図は、八木沼健夫氏の御厚意により、ACTA ARACHNOLOGICA Vol. 20 No.2 より転写したものである。

1. Dorsal view (♀)
2. Eye area (♀)
3. Mouth part (♀)
4. Palp (♂)
5. Trochanter (♀)
6. Pedicel (♀)
7. Onychium and claws (♀)
8. Epigynum (♀)

## 分類学研究におけるカードシステムの利用 (2)

松本 誠治

本誌第5号(1977)に上記の題名で一文を載せてもらってから既に10年を経過した。その内容は、「不要になった裏白の厚手の紙をB7サイズに切り、文献をみているときにその場で重複を恐れずにその内容を書いてゆき、属名別に整理しておく」というものであった。この方法は、あれこれ考え、試した後の方法であり、私にとっては10年経った今でも使用可能なものとなっており、カードが多くなる程に有用性を増して来ている。ただ近年、私が興味を持っているハエトリグモ科でもモノグラフがいくつも公表されているので、文献を見ながらカードに記入するのにもかなりの労力が必要となっている。また必要項目を検索するのもカードが増える程に、時間と労力が増えている。しかし、このカード作りについては、それを他人にまかせると文献の内容を把握するのに支障をきたすのではないかと思ひ、自分でしなければならぬ仕事にしている。

ところで、このような多量(必然的に多量になっていく)のデータの収録・整理・検索に、コンピュータを使うという話が個人レベルでもいわれるようになってきて、その有用性も多く宣伝されているが、個人レベルの場合、またクモ学という特殊分野の場合にはどれ程有用であるか疑問に思うこともある。有用性を説く人は、「スイッチを入れるだけで」とか「フロッピー1枚あれば」などと言うのであるが、個人で使っている側にとれば、「スイッチを入れなければ」とか「フロッピーにデータを入れておかなければ」などと言うことで、大きな制約を受けている。集団で通信回線を使ってデータを交換するには少々特殊分野でありすぎ、またハッカーやウィルスの存在も気になる。しかし、パソコンをデータの収録・整理・検索に利用することは否定しない。むしろ今後のためにと考え、自分の分野のデータだけでもなるべく収録しておこうとしているのが現状である。おそまきながら、8bit CPUから16bit CPUの機種へ転換を試みているので、それが従来からのデータ入力の労力に輪をかけて負担になっている。近い将来36bitの機種が一般化された時のことを思うと、複雑な気持ちになる。カードからパソコンへの入力とその他力本願でもよいように思う。コンピュータ利用の可能性は、コンピュータの性能やコストと深く関係しているので、私個人にとっては全面利用に踏み切ることをちゅうちょさせるものがある。それ故、カードシステムは今後も継続してゆくことになるであろう。

さて、前報で例にとったカラスハエトリについて、その後増加したカードの内容を追加紹介しておきたい。

前報では、カラスハエトリの学名は *Dendryphantès atratus* (Karsch, 1881) に落着いていると記し、また *Rhene* 属は *Rhanis* 属と同義であり、*Rhanis* C.Koch, 1848が *Rhene* Thorell, 1869 となった理由は不明であると記したが、前者は Wesołowska (1981) [858]: 47-49 で再び *Rhene* とされ、*Dendryphantès* とした Prószyński もそれを認めている。この結果を踏えて、八木沼 (1986) の「原色日本クモ類図鑑」237ページにも、*Rhene atrata* (Karsch) とされている。また後者については、Thorell (1869) の「On european Spiders」37ページに「*Rhene* nom. nov. for *Rhanis* C.Koch preoccupied」と記されており、ホモニム関係により *Rhene* となったことが明らかになった。

以上、カードシステムおよびパソコン利用について、若干の私見を述べさせてもらい、前報で例に挙げたカラスハエトリについての情報を追加紹介させていただいた。前報も再読していただけると幸いである。

(1988・7・7)

## クロマルイソウロウグモの採集観察記

新 海 明

房総半島のほぼ中央にある JR上総亀山駅から徒歩で約二時間ほどのところに東京大学千葉演習林の郷台と呼ばれる作業所がある。私は毎月一回ここに宿泊しながら主に造網性クモ類の調査をしている。

1986年 8月のことである。いつものように二時間程の林道を歩き郷台にたどりついたとき、ふと、宿舎の入り口に張ってあったオオヒメグモの網の中に小さな黒いクモがいるのが目にとまった。目を凝らしてよくみると何やらイソウロウグモのようである。黒色のイソウロウグモといえば、私はクロマルイソウロウグモしか知らない。けれども、この黒いクモは全然丸くなかった。楕円形を少々いびつにしたような感じの体形をしているクモだった。翌日、宿舎のまわりや林道沿いで、このクモを気にしながら調査をしていると、他に数頭、やはりオオヒメグモの網の中で探し出すことができた。標本用にと一頭(♀)採集して持ち帰ったが、その年はよく調べず、ひょっとするとイソウロウグモの新種かも知れないなどと思いつつ終わってしまった。

翌1987年 6月、千葉演習林内の本沢林道というところを歩いていた。この林道は、1974年以来ほぼ毎月のように歩いているのだが、1980年以降はニホンジカが多くなり、その分布の拡大とともにヒルが増えてしまい、最近はおちおち採集もしてられないほどである。クモの造網過程の観察をしようかなどとおもい、立ち止まれば、たちどころに2~3匹のヒルにたかられるといったありさまである。足早にこの林道を通り過ぎようとしたのだが、林道沿いのガードレールに造網していたカグヤヒメグモの網のなかにいる黒いイソウロウグモが目にとまった。カグヤヒメグモは網の中央に枯れ葉を吊り下げた隠れ家の中におり、卵のうを持っていた。このイソウロウグモがどのような餌捕獲法を用いるのかと思い、ヒルに気をつけながら、暫く観察していた。一向に動く気配がないので、長時間の観察はヒルとの戦の上では不利だと判断して、これらを採集して持ち帰り調べてみることにした。採集した際に管ピンに入れてわかったことであるが、カグヤヒメグモの卵のうはすでに子グモが出のうしていた。採るとききの振動で枯れ葉のなかから子グモがバラバラとこぼれてきた。そして、その網の中には黒いイソウロウグモがオス・メス各一頭ずついた。

家に持ち帰った翌日、飼育に用いたフィルムケース内をみたところ、なんと体が丸くなった「クロマルイソウロウグモ」がいるではないか。図鑑をみ

るまでもなく、まさにクロマルイソウロウグモ（以下、クロマルと呼ぶ）なのである。一晩の間にカグヤヒメグモの子グモを食い、あげくに親グモも死んでいたことから考えると、これも襲い捕食して丸々と太ったのだと推察された。しかし、その腹部の変化のありさまはまさに驚くべきものであった。ちょうど、その腹部に空気か水でも流しこんだような感があった。このようなことから、前年（1986）以来、千葉県清澄山地方で発見された小さな黒い（腹部の丸くない）イソウロウグモは、クロマルの「満腹前」の姿であったことが判名したわけである。

八木沼先生の図鑑のクロマルは捕食後の「満腹」した姿のものであり、少なくとも、捕食前はあのような丸い形はしていないのが普通である。あまりに、クロマルの形態が特異である（学名ですら *Spheropistha*=球形の、となっている）ため、クロマルは丸いと決めつけてみていた私に問題があったと反省した次第である。

その後にはわかったことであるが、このクモは千葉県では浅間茂氏も採集されており、やはり疑問をもたれていたようである。最近になり（1988. 7）、私は神奈川県秦野市で本種のオスを一頭採集しているし、兄（栄一）も静岡県伊豆半島でクロマルを採っている。

本種は、現在まで高知県（中平清氏）、広島県（大志茂善平氏）、三重県（貝発憲治氏）、そして九州でわずかに採集されているだけであるが（八木沼, 1957: 1987: 貝発, 1986）、南方系のクモであると考えられるので、今後、調査が進めば千葉・神奈川・静岡に続き中部地方や関東地方の各地で相次いで発見されることであろう。ただし、このクモの宿主はオオヒメグモという極めて普通種であるために、かなり意識的にその網内、特に卵のうを持っている個体の網を中心によく観察しないとなかなか発見されないと思う。クロマルがかくも多数（少なくとも千葉県においては）生息していたにもかかわらず、今まで幻のクモであったのは、どうやら、その宿主があまりに普通種であったため、クモの研究者の注意をひきつけないという、盲点があったせいであるようだ。

#### 引用文献

貝発憲治, 1986. 大宮町の真正蜘蛛類(II). *しのびぐも* (14): 1-11.

#### 引用文献

Yaginuma, T., 1957. Two new Conopisthine spiders from Japan. *Acta arachnol.*, 15 (1): 11-16.

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. Pp. 1-xxiv+1-305. 保育社, 大阪.

# 四日市市における電線の間張られた ジョロウグモの網の分布に関する一考察

太田定浩・貝発憲治

## 1. はじめに

筆者らは昨年来、「四日市市史編集専門委員会自然部会動物部門」の調査員、並びに「四日市市野生動物調査会」の一員として、クモ類を担当しその調査にあたっている。この調査の一環として、今回「自然らしさを調べるための指標生物」としてコガネグモ科のジョロウグモをとりあげ、予備的に市内6地点で調査したところ、一応の結果が得られたのでここに報告する。

ジョロウグモが指標生物としてすぐれていることについては、大野正男氏が次の3点をあげている。「(1)非常に目立つので容易に見つけられ、採集などいっさい不必要である。(2)晴雨に関係なく網を張り、時刻に関係なく網面に静止しているので、いつ調査してもデータをとることができる。(3)同定はクモの姿態、網の構造できわめて簡単である」また、調査の適期については、大野氏は10月上旬、徳本洋氏は9月中旬～10月下旬前半と述べている。

これらを参考にして次のような調査を行った。

## 2. 調査時期および調査地点

調査は、昭和62年10月10日(土・祝日)。一部11日(日)に行われた。

四日市市は、伊勢湾に面した海岸地帯に、南北に平行して国道1号線、近鉄名古屋線、JR関西本線が走り、これに沿って市街地がある。その西に戦前からの住宅地に混じって、戦後造成され今なお造成し続けられている住宅団地が連なる丘陵地帯が、さらにそれに続く西には、昔ながらの農村田園地帯から、鎌ヶ岳(海拔1157m)水沢岳(1030m)のある鈴鹿山脈がつながっている。

そこで、比較する意図もあって、次の6地点を選んだ。

- A. 塩浜七つ屋町……塩浜街道沿いの市街地で、石油コンビナートに隣接し、道路の交通量はかなり多く、電線下には街路樹がある。
- B. 前田町……サクラ、クロマツなど樹木の多い丘陵(泊山公園)の裾にそった、庭木が比較的多い家が並ぶ、戦前からの住宅地。
- C. 笹川5丁目6丁目……笹川団地のほぼ中央、カイズカイブキの生け垣に囲まれた笹川東及び西公園の間の道路で、電線下には、ケヤキの街路樹が並ぶ、戦後造成された団地。なお、直線距離で600m東には緑地の多いかなり大きな南部丘陵公園



がある。

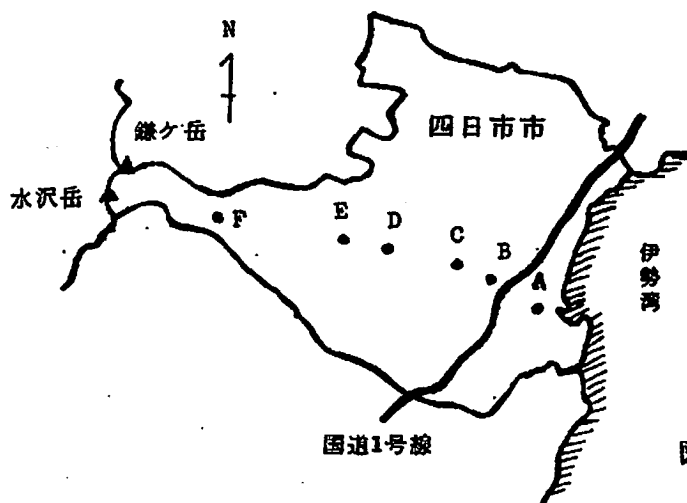
- D. 桜地区毘沙門天裏……アカマツ林の下にヒサカキなどの低木が茂る丘陵地で、道路の片側は、貯水場の金網フェンスになっている。
- E. 小山田地区小山町……付近にほとんど人家のない畑に続くマツ林で、その下にはハゼ、ヒサカキなどが茂り、ところどころの少し開かれたところには、ススキやセイタカアワダチソウが群生している田園地帯。
- F. 宮妻町……内部川の上流宮妻峡の入口で、人家が点在するところから、比較的ひらけ、小低木や草が茂る山道につながる山地帯。

### 3. 調査方法

四日市市の6地点でロードセンサスの形をとり、一人当たり500歩、歩幅約50cmとして約250mの距離の間にある、道路沿いに引かれている電(灯)線(通常2段で各々3~4本ずつ線が引かれている)の間及び電線と電柱との間に張られている網の数(雌の個体数でもある)を数えた。二人分を合わせると、約500mの距離の間にある網の数である。なお、参考として、調査区間の電線下にあたる、道路に沿う人家の軒や庭木、塀、生け垣、フェンスなど、山地ではブッシュ立木など、に張られている網を、道路線からほぼ2~3mの範囲に見られたものを数えて記録した。

### 4. 調査結果および考察

調査6地点(図1)でカウントした網の数を、参考を含めてまとめたのが表で、このうち電線間の網の数をグラフにしたのが図2である。



| 調査地点       | 網の数 | 電線に張られた網 | (参考) 調査区間<br>周囲の網 |
|------------|-----|----------|-------------------|
| A 塩浜七つ屋町   |     | 0        | 2                 |
| B 前田町      |     | 23       | 50                |
| C 笹川5丁目6丁目 |     | 9        | 8                 |
| D 桜地区毘沙門天裏 |     | 83       | 242               |
| E 小山田地区小山町 |     | 72       | 124               |
| F 官妻町      |     | 9        | 15                |

表 単位距離(約500m)当りのジョロウグモの網の数

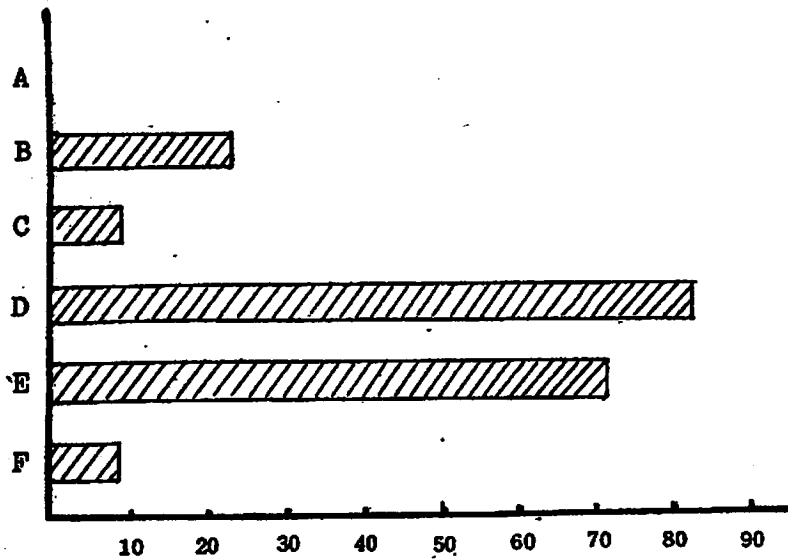


図2 単位距離の電線に張られた網の数

これらから、DおよびEのような森林やブッシュ環境の中に引かれた電線での個体数は、他に比べて多いことがわかった。また、参考に調べた周囲環境での個体数も桁外れに多かった。これは、若令期のクモが多く生息できる環境が豊富にあるためと考えられる。

次に、A、B、Cは、人家が多い市街地・住宅地ではあるが、少しずつ環境が異なる。

Aは海岸に近く、石油コンビナートに隣接する市街地で、北西約1km離れたところにかなり大きな社叢があるものの、幼生の生育環境に乏しいためか、網は全く認められなかった。

Bは、森林やブッシュ環境が近くにあるため、網の数はA・B・Cの中では一番多く、周囲の数もかなり多かった。

Cは、大きな団地のほぼ中心部で、カイズカイブキの生け垣やニセアカシアなども植えられた公園にはさまれた道路で、1km以内の近くに大規模な丘陵緑地があるにもかかわらず、個体数はそれ程多くなかった。

Aは、石油コンビナートに隣接し、さらにB、Cに比べ道路の自動車の通行量も多いため、大気汚染による影響を考慮得る地点であり、事実網は全く認められない。しかし、ブルーニングの問題もあり、排ガス等の影響のほとんどない、似たような別の地点で調査して比較してみないと、汚染の影響については何とも言えないと思う。

Fは、海拔約300mの山麓地で、点在する人家が切れて山道に入る地点で、調査距離のほぼ半分が人家点在部、残りが山道である。人家のあるところにはほとんど網が認められず、全体の数も思ったより少なかった。

電線の間には張られたジョロウグモの網を調査対象にしたのは、ブルーニングしてくる個体が多ければ、電線にかかる確率も高くなるから、その付近の生息密度をある程度示すものと思われ、自然度を知る一つの手がかりになり得るものと考えられるからである。しかし、そこで網を張っているジョロウグモが、どこでフ化し、どこから、どれだけの距離をブルーニングしてきたものか、現段階では皆目わからないので、この点については、さらに検討調査が必要だと思われる。

今後は、さらに調査地点を増やすとともに、環境のより細かな調査分析もあわせて行い、また経年変化についても検討していきたいと思っている。

## 5. 参 考 文 献

大野正男 1985, すみかたで自然度をはかるジョロウグモ。日本自然保護協会編集・監修 指標生物——自然を見るものさ

徳本 洋 1978, 金沢市市街地におけるジョロウグモの分布. ATYPUS  
(73) : 38-39

## 三重県におけるクロマルイソウロウグモの記録

(貝発)

新海明氏の報文「クロマルイソウロウグモの採集観察記」に関連して、南方系の珍蛛クロマルイソウロウグモの、三重県における既確認地を改めてここにまとめてみた。

(1)、伊勢市伊勢神宮外宮 [ C3642-3429 ] 1961.

橋本理市, 1963. 伊勢神宮々域のクモ類目録資料. 植賀先生喜寿祝賀記念文集. 1-5.

橋本理市・杉永厚, 1963. 三重県産真正蜘蛛類目録 (予報). 三重生物 (13) : 33-40.

(2)、鈴鹿市小岐須町小岐須溪谷 [ C3625-3457 ] 15-VII-1962 ♀A1

(3)、員弁郡大安町砂山 [ C3628-3506 ] 19-VIII-1962 ♀Y1

(4)、員弁郡大安町宇賀溪 [ C3628-3405 ] 19-VIII-1962 ♂A1

小岐須谷、砂山、宇賀溪で採集。宇賀溪の♂1は日本ではじめての記録。

太田定浩, 1963. 鈴鹿山脈を主とした北勢地方の真正蜘蛛類. 鈴鹿山脈自然科学調査報告書. 111-118.

八木沼健夫, 1982. 三重県のおもなクモ数種について. しのみぐも (10) : 5-9.

(5)、一志郡美杉村平倉 [ C3614-3427 ] 12-VII-1963. ♀3♂1

日当りのよいオオヒメグモの網内にいた。ただ1つの巣のみにいた。

橋本理市, 1963. 三重大学平倉演習林のクモ (III). ATYPUS (30) : 21-24.

橋本理市, 1968. 三重大学平倉演習林の真正クモ類目録. 三重大学演習資料№2. 7-12.

(14ページへつづく)

## 孫福先生を偲んで

橋 本 理 市

植物学者でコケの研究家、また博物学者でもあった孫福正先生は昨年四月二十一日午後十時四十分永眠されました。心筋梗塞による心不全が原因でした。おそ咲きの桜が散り始めた風のとよい夜、昼の嵐とともに去ったという印象です。

去年はことのほか天候が不順で、寒に入ってもぬくい日と思いきや、春先になって急に冷えこみ、桜の開花が例年よりおくれた年でもありました。厳寒期をやつとのことでのり切り、二月十日には八十歳の誕生を迎えた先生は、四月七日の夜風邪をこじらせてしまいました。主治医のすすめにより、伊勢総合病院へ入院はしたのですが、十時以降は暖房を切ってしまうという貧困な医療行政の中で夜半はふるえるほどの寒さです。私の家からはこんだカーテンや毛布で室温がにげるのを防ぎながらの治療でした。妻（孫福先生の長女）はその夜から泊りこみの看病で、末娘あゆみの入学式は知り合いの奥さんに保護者がわりをしてもらいました。同じコケ研究仲間の山田耕作さんや教え子の南平秀生さんが、何度も見舞ってくれ、こまごまと気をつけてくれました。

桜が好きだった先生は、伊勢市や周辺部の桜を観察し、図版をつけて「伊勢の桜」を自費出版したこともあります。小康を得たある夜、市内一字田町の峠道で切りとってきた山桜の一枝を長女のゆきがさし出すと、目をかがやかせながら無言で手をのばし、おきあがろうとした姿に看病の者は涙をさそわれました。

先生は植物鉞物ばかりではなく、クモの観察も初期の頃は手がけていました。植賀安平先生とともに、三重県内のクモの研究家としては草分けの仕事がされました。正確な図鑑のない時代に、自らスケッチをし、岸田さんや植村さんとも文通して情報交換していたことが、残された資料によってうかがうことができます。山田先生や南平先生によってコケの標本や文献の整理が一段落したら、クモ関係の研究資料等も整理して皆様に紹介をしたいと考えています。そうすることが、先生に対する我々後輩のせめてものはなむけとなるでしょう。

(1988・8・11)

## 三重クモ談話会調査会報告

期 日 昭和63年 5月22日  
場 所 三重県桑名郡多度町古野、多度川上流域〔C3636-3538〕  
参加者 須賀英文・須賀和子・橋本理市・貝発憲治・太田定浩

### 雨にたたられた多度峡

本会ではここ数年、原則的に春秋の2回、会員に案内して、県内各地域でクモ類の調査会（採集会）を計画実施してきた。県下のクモ類のファウナについては、1984年に「三重県産真正蜘蛛類」（太田・橋本・貝発）として、これまでの記録を一応まとめているが、南北約170kmと長く、面積も約58万haある本県の全域を網羅して調査することはそう簡単ではない。松本誠治さんが、本県のこれまでの調査採集地を、経緯度5分ごとのメッシュに記入してつくられた図（「三重県下のクモ調査地についてのLocality Codeによる検討」本誌第7号 1979）を見ても、かなり空白の部分が目立つ。したがって、本会でもこの空白部を少しでもなくすよう、今後調査地域を広げていく必要を痛感している。そこで、本年度第1回の調査会は、中部蜘蛛懇談会にも参加を呼びかけたこともあり、また、日帰り日程ということもあって、県北部の桑名郡多度町の多度峡を調査地に選んだ。多度峡（八壺溪谷）は、養老山地の南端多度山（403m）の北を水源とし、多度町多度をへて、上の郷と南の郷の間で揖斐川に注ぐ、多度川の上流域である。

調査日の5月22日（日）は、数日真夏日が続いた後、前々日の夜から雨になり、前日、朝のうち雨は残ったものの、天候は回復の兆をみせたので、好天が期待された。しかし、当日は朝から雲がかなり厚く空をおおい、今にも雨粒が落ちてきそうだった。

8時過、松阪から来た貝発さんの車に便乗して、国道1号線から285号線（大桑道路）をへて多度へ向う。走り出すと間もなく雨がフロントガラスにあたり出す。が、やがてやみ、空は重いものの大したことはなさそう。9時前に近鉄養老線多度駅前に着き、名古屋の須賀先生を待つうち、とうとう降り出してきた。本降りになるらしくやみそうにない。やがて奥さんとご一緒の須賀先生がみえ、雨ながら折角来られたのでとでかける。当初の予定では、多度大社前から八壺谷の途中まで車を入れ、そこから川沿いの道にそって調査することになっていたが、多度大社まで来てみると、うかつにも気がつかなかったが、日曜日とあって“いちご狩り”にきた観光バス、乗用車が駐車

場から道路にまであふれ、車で入ることはおろか、付近に車を停めることさえできそうにもないので、急に予定を変更して別の道から多度川上流へ入るべく、県道多度員弁線を北に向かって走る。かなり行ってから右側のわき道へ入ったが、初めてのことで道に迷い動きがとれなくなってしまった。やっとの思いで元の道へでて、以前一度来られたことがあるという須賀先生に教えられて古野からやっ和多度川上流の谷に入ることができた。雨は依然として降り続けている。道の少し広がった所に車をとめる。雨具を身にまとい、傘をさしての採集はなかなか思うようにいかない。貝登さんは水に浸かったリターを掘りかえしている。私も雨滴のしたたり落ちる木の枝を少しピーティングしてみたが、たちまち網はじつとりと重くなり、網でうけるのも、枝をたたくのも思うにまかせず、入ってくるクモもごくわずかであった。こんな状態ではあったが、暫く付近を調査した結果、確実に目認し得た種は、オオヒメグモ、ヤマシロオニグモ、イオウイロハシリグモなどの9科16種であった。一向にやみそうにない雨に、折角、名古屋から来ていただいた須賀先生ご夫妻には申し訳なかったが、これ以上の調査をあきらめて、道ばたの一寸した小屋で雨をさけながら昼食をとった後引き返した。

(太田定浩 記)

## ○ 同 定 結 果

### I. ウズグモ科

1. ウズグモ ♀A 1

### II. マシラグモ科

2. マシラグモ科 sp. ♂A 1. ♀SA 1

### III. ユウレイグモ科

3. ユウレイグモ Y 1

### IV. ヒメグモ科

4. オオヒメグモ ♀A 2

5. ツリガネヒメグモ ♀SA 1

6. ギボシヒメグモ Y 1

7. アシプトヒメグモ ♀A 1

8. カニミジグモ ♂A 1. Y 1

9. ホシミドリヒメグモ ♀A 1

10. ムラクモヒシガタグモ Y 1

|                |             |
|----------------|-------------|
| 11. オナガグモ      | Y 1         |
| V. サラグモ科       |             |
| 12. アシナガサラグモ   | Y 1         |
| 13. ユノハマサラグモ   | ♀A 2        |
| 14. ツリサラグモ     | ♀A 1        |
| 15. ムネグロサラグモ   | ♀A 1        |
| 16. デーニッツサラグモ  | ♀A 1        |
| 17. ニセアカムネグモ   | ♀A 1        |
| 18. サラグモ科sp.   | Y 1         |
| VI. コガネグモ科     |             |
| 19. ヤマシロオニグモ   | ♀A 1. Y 1   |
| 20. コガネグモ      | ♂SA 1       |
| 21. チュウガタコガネグモ | ♀SA 1       |
| 22. ゴミグモ       | ♀A 1        |
| 23. ヨツデゴミグモ    | ♀SA 1, ♀Y 2 |
| VII. アシナガグモ科   |             |
| 24. コシロカネグモ    | ♀A 1        |
| VIII. タナグモ科    |             |
| 25. クサグモ       | ♀SA 1. Y 1  |
| 26. ヤチグモ属sp.   | ♀A 1        |
| 27. ヤチグモ属sp.   | Y 1         |
| IX. コモリグモ科     |             |
| 28. ハリゲコモリグモ   | ♀SA 1       |
| 29. チビコモリグモ    | Y 1         |
| X. キシダグモ科      |             |
| 30. イオウイロハシリグモ | Y 1         |
| XI. シボグモ科      |             |
| 31. シボグモ       | ♂SA 1. Y 1  |
| XII. アシダカグモ科   |             |
| 32. コアシダカグモ    | Y 1         |
| XIII. カニグモ科    |             |
| 33. ヤミイロカニグモ   | ♀A 1. ♂A 1  |
| 34. ハナグモ       | Y 1         |
| XIV. エビグモ科     |             |



|                |            |
|----------------|------------|
| 35. キエビグモ      | Y 1        |
| XV. ハエトリグモ科    |            |
| 36. マミジロハエトリ   | ♀A 1. ♂A 1 |
| 37. デーニッツハエトリ  | ♀A 1. Y 2  |
| 38. マガネアサヒハエトリ | ♀SA 1      |
| 39. アメイロハエトリ   | ♀A 1. ♂A 1 |

以上、 15科31属39種

昭和62年度の第 2 回目の採集会は、10月25日（日）に員弁郡大安町宇賀溪で行う計画がたてられたが、あいにく、愛知県の方々の都合がつかず、参加者は太田定浩先生と私の 2人になってしまった。私達は、昭和63年10月まで四日市市の自然調査の一員として、クモの分野を担当している。それで、急ぎょ予定を変更して、この日は四日市市の山村ダム、西村町、御館、高松海岸を採集して回った。詳しい同定はまだ済んでいないので、後日報告をする予定です。県内の方も多数採集会に参加されることを期待します。

（貝発憲治 記）

- (6)、熊野市大馬神社〔C3604-3354〕 5-VII-1979 ♂♀多数  
オオヒメグモの網内に多数みられた。  
太田定浩・貝発憲治, 1981. 熊野の真正蜘蛛類. 三重生物 (29/30)  
: 33-35.
- (7)、尾鷲市不動谷〔C3609-3408〕 10-VIII-1980. ♀A1  
太田定浩・貝発憲治, 1980. 尾鷲地方の真正蜘蛛類相. しのびぐも  
(8) : 16-34.
- (8)、大宮町滝原宮〔C3625-3421〕 6-VII-1985. ♀A3 ♂A2  
クサグモの迷網のところにあつた。いずれも腹部は丸くなく、直方体のようにへこんでいた。  
貝発憲治, 1986. 大宮町の真正クモ類 (II). しのびぐも (14)  
: 1-11.

談話会図書 (文献目録)

|      |                    |             |         |
|------|--------------------|-------------|---------|
| 194. | 談話会通信              | No5 8       | 東京蜘蛛談話会 |
| 195. | 談話会通信              | No5 9       | 東京蜘蛛談話会 |
| 196. | ACTA ARACHNOLOGICA | vol. 35 No2 | 日本蜘蛛学会  |
| 197. | A T Y P U S        | No9 0       | 日本蜘蛛学会  |
| 198. | 蜘蛛 (21)            |             | 中部蜘蛛懇談会 |
| 199. | 談話会通信              | No6 1       | 東京蜘蛛談話会 |
| 200. | ACTA ARACHNOLOGICA | vol. 36 No1 | 日本蜘蛛学会  |
| 201. | ACTA ARACHNOLOGICA | vol. 36 No2 | 日本蜘蛛学会  |
| 202. | A T Y P U S        | No9 1       | 日本蜘蛛学会  |
| 203. | 九州クモの会会報 (第17号)    |             | 九州クモの会  |
| 204. | K I S H I D A I A  | No5 6       | 東京蜘蛛談話会 |

◎談話会図書貸し出し希望の方、機関誌バックナンバー御希望の方は、事務局までお申し込み下さい。

## 昭和62年度決算報告

|        |          |              |
|--------|----------|--------------|
| 収入の部   | 96,999 円 |              |
| 前年度繰越金 | 67,867   |              |
| 会費     | 29,000   | (1,000 × 29) |
| 利子     | 132      |              |

|                       |          |  |
|-----------------------|----------|--|
| 支出の部                  | 27,338 円 |  |
| 機関誌第15号製本代            | 6,000    |  |
| 機関誌第15号紙代             | 3,830    |  |
| 機関誌第15号郵送代            | 4,600    |  |
| ファックス原紙代              | 5,000    |  |
| 事務費 (ハガキ・切手・<br>のり代等) | 7,238    |  |
| 孫福氏弔電代                | 670      |  |
| 残高                    | 69,661 円 |  |

上記の通り相違ありません

昭和63年3月31日

会計員 発 憲 治

### 会費領収 (敬称略)

〔昭和63年8月25日現在〕

(昭和59年度) 藤吉恵美 (昭和60年度) 藤吉恵美、太田定浩  
 (昭和61年度) 藤吉恵美、太田定浩 (昭和62年度) 藤吉恵美、  
 太田定浩、市橋甫、田中穂積、永井均、緒方清人、千国安之輔、石田昇三、  
 板倉泰弘、橋本理市、新海栄一、松井勇作、池田博明、須賀英文  
 (昭和63年度) 藤吉恵美、太田定浩、市橋甫、田中穂積、緒方清人、  
 千国安之輔、板倉泰弘、新海栄一、池田博明、須賀英文、小沢実樹、  
 員発憲治 (昭和64年度) 太田定浩、池田博明、小沢実樹  
 (昭和65年度) 小沢実樹

◎会費未納の方は、至急お納め下さい。原則として前納でお願い  
 します。

郵便振替

名古屋 8-3895

## 編集後記

今年の夏休みは、日本蜘蛛学会名古屋大会もあり、あっというまに過ぎ去りました。しかし、心配していた原稿の方は、募集早々に松本さん、新海明さんからいただきました。また、橋本さんからも大変お忙しい中を、孫福先生のことをお寄せいただきました。お陰様で例年よりも少し余裕をもって、編集作業を進められました。ありがとうございました。引き続き会員の皆様のより一層充実した活動をお願い致します。

(貝 発)

しのびぐも 第 16 号 1988

昭和 63 年 8 月 25 日 印刷

昭和 63 年 9 月 5 日 発行

編集者 太田定浩・橋本理市・貝発憲治

発行者 太田定浩

発行所 三重クモ談話会

(本部) 〒510 三重県四日市市前田町23-3

太田定浩 方

(事務局) 〒515 三重県松阪市久保町1843の157

貝発憲治 方